

講義名	ヒューマンリレーション論			授業形態	
担当教員	西尾 範博	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限 / 後期 金曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

この授業は、実際にどこかで起きた人間及び人間関係上の出来事を書いたケースを取りあげ、担当教員がファシリテーターとなって、学生による活発なディスカッションを行う時間の連続となる。毎回、個人学習、グループディスカッション、クラスディスカッションというプロセスを経て、自己理解や他者理解を深めながら、人間関係に不可欠な知識とスキル（到達目標参照）を身につけることを目指している。

到達目標

自らの考えや感情を表現する勇気と、ほかの人の考えや感情に耳を傾ける思いやりを養うことができる。
 ケースという他人事についてディスカッションする過程で、自己理解や他者理解を深めながら、人間関係に不可欠な知識とスキルを身につけている。
 問題を発見する力、分析する力、解決する力を身につけている。
 ディスカッションに自ら進んで取り組むことができる。
 自ら目標や課題を設定し、それを成し遂げたり解決に結びつけることができる。
 現象や事象のなかに隠れている問題やその要因を察し、解決すべき課題を設定することができる。
 ディスカッションに際して、他者に働きかけ、協力を取りつけることができる。
 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力してディスカッションを進めることができる。
 他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができるようになる。
 8回にわたるレポート作成を通じて、情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができるようになる。
 8回にわたるディスカッションやレポート作成を通じて、新しい視点と豊かな発想によって新しい価値を見いだすことができるようになる。

提出課題

毎回の授業内容に基づく課題に関するレポート（1,000～1,200字）の作成を課題とする。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回課されたレポートは、学生一人ひとりに100字程度のコメントをつけて返却し、よりよいレポートの書き方や授業中のディスカッションをより充実したものになるよう指導するとともに、到達目標を一つでも多く達成し、また少しでも深く達成できるよう支援していく。

評価の基準

レポートによる評価（40%）と授業への参加状況や貢献度（60%）をもとに評価する。期末試験は行わない。なお、授業に出席してもレポートを期限通りに提出しないことや授業に欠席してレポートだけを提出するのは認められない。いずれも欠席として扱われ、授業5回分の欠席をもって評価の対象外となるので注意すること。

履修にあたっての注意・助言他

教育効果を最大限に高めるため20名を定員とする。
 二週に一度のペースで1回あたり2コマ連続で開講する。
 毎日がディスカッションの連続となるので、学生一人ひとりの積極的な参加と、発言等の貢献が不可欠となる。そのためには2コマ連続の授業に備えて体調を整えて出席し、熱心かつ積極的に取り組むことが求められる。
 授業に出席しても受講態度がよろしくない学生は、共に学ぶ他の受講学生にとってよろしくない影響をもたらすので、出席回数に関係なく評価の対象外となる。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

その他

授業中に随時ディスカッション用ケース（プリント資料）を配布し、参考文献を適宜紹介する。

授業計画

1. 授業概要の説明
2. ケース「諦めるべきか続けるべきか」に関するディスカッション
3. コミュニケーション・ゲーム（1）
4. コミュニケーション・ゲーム（2）
5. ケース1「二人の教授」に関するディスカッション（1）
6. ケース1「二人の教授」に関するディスカッション（2）
7. ケース2「フランス語の授業」に関するディスカッション（1）
8. ケース2「フランス語の授業」に関するディスカッション（2）
9. ケース3「4年目看護師の悩み」に関するディスカッション（1）
10. ケース3「4年目看護師の悩み」に関するディスカッション（2）
11. ケース4「価値観がちがう」に関するディスカッション（1）
12. ケース4「価値観がちがう」に関するディスカッション（2）
13. ケース5「マーケティング・サービスマンへの昇進」に関するディスカッション（1）
14. ケース5「マーケティング・サービスマンへの昇進」に関するディスカッション（2）
15. 全体のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業内容に基づく課題に関するレポート作成（2時間以上）をもって復習するとともに、学んだことを日常生活で試行すること（2時間以上）をもって次回の授業に臨むための予習とする。以上のことは、次の授業における学びの質を高めることにつながるもので、必ず取り組むこととする。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、上記の主題と概要、授業計画のもと到達目標の達成をもって、本学のディプロマ・ポリシーである次の5点の育成に貢献するものである。「ネアカ」のびのび「へこたれず」の精神を培った人材の知識を応用することができる人材、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材、「自己・自己の精神を持った人材、仲間と協力して、物事を成し遂げることができる人材を育成するとともに、心理コースが育成を目指す「さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる」こと、「コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用することができる」こと。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎日がディスカッションの連続となるこの授業では、学生の発言なくしては成立し得ない。学生の発言内容一つひとつを担当教員が簡潔に板書しながらディスカッションが進む。双方向性の非常に高い時間の連続となる。また、クリッカー（レスポンス）を活用した小課題により学生の興味関心を高め、学びの質を高める機会を積極的に設けていく。以上の過程で到達目標を一つずつ達成していくことを目指す。

実務経験の有無及び活用

備考

学生の活発なディスカッションなくしては成立しない授業ゆえ、体調を整え、心身共に万全を期して出席することが不可欠となる。体調のよろしくない状態の学生には耐えられない180分となるからである。ただし、体調を整え、積極的に取り組む学生にとっては、活発なディスカッションにより多くの学びを得て、自身の成長が実感できる授業の連続となる。